

部活動改革、その先へ

《連載》
第22回



山形・
鶴岡市発

そのほか、同市では国の部活動地域移行（展開）の動きを受け、21年に市教育委員会が事務局となり、中学校校長会や地域のスポーツ・文化団体、PTA連合会などで構成する検討委員会を立ち上げ今後の方針などを検討。その方針などを踏まえ、稲穂フアミリーSC内に、新たに中学生対象の「クレセルサッカークラブ」を設立。各担当などに順を追って事情を聞く（肩書などはプロフィール写真参照）。

純粹に中学生の活動場を

後藤 当市には現在96のスポ少があり、小学生加入率は3割強と全国的にも高く、スポ少活動が盛んです。少子化ゆえに団員数は減少傾向ですが、スポ少で



後藤友哉氏(鶴岡市教育委員会スポーツ課主任)

スポーツを楽しむジュニアは少なく、96団中31団では中学生も加入。各種リーダー養成事業にも積極的に派遣しており、日独スポーツ少年団同時交流にもこれまで51人の団員と2人の指導者が参加しています。

広大な土地柄、さまざまな課題はありますが、合併前の旧市町



後藤友哉氏（鶴岡市教育委員会スポーツ課主任）

村ごとにスポ少事務局を配置し、各小学校区にも育成母集団^(※)を組織するなど、地域一体となつてスポ少活動を支える体制を整えてきました。

広大な都市、スポーツが盛ん、総合型クラブとスポーツの密な関係なども印象的だが、ならば、なぜクレセル新設なのか。

技志向でない、またはこれから
サッカーを始めたという層の行
き場が少ないと感じていました。
そこで、クレセルでは、そのよ
うな層の受け皿になることと
も意識しながら活動してい
ます。

その結果、活動初年度ながら、3つの中学校から19人

写真／石塚康隆

本間 歩氏(稲穂ファミリースポーツクラブ理事、クレセルサッカークラブ指導者、山形県スポーツ少年団指導育成委員会委員、稲穂サッカースポーツ少年団37期生)

きたと思います。平日の練習はスポ少と同会場で行っており、施設予約や指導体制という面でも協力しています。

るので最初はよそよそしいところもありましたが、ムードメーカーもいてすぐに仲よくなり、今はとても楽しそうに活動しています。

コーチという立場の変化は？

若公 以前より寛容でおおらか

本にしたいのは武道。町の道場では、子どもから大人まで一緒に汗を流す。世間の認識としては、まだまだスポ少。小学生の活動とは思いますが。クレセルに加入している中学生もスポ少登録

村田 それにはマネジメントする人材が必要です。冒頭の保護者会クラブを廃止するのも、1年ごとに代表が代わり、活動理念が

が加入。うち11人は初心者という状況で、クレセルへのニーズを感じています。スポ少経験のない保護者も多くいますが、保護者の理解と協力なくしては運営が難しく、活動方針やスポ少との関わり、リーダー養成事業の内容、そんなところから理解いただくようにしています。

競技志向が強いクラブでは会費や遠征費の負担も大きいですが、クレセルは、あくまで部活動レベルの活動で、楽しさ重視。半費以上が初心者というのは初めての経験ですが、多様な参加者がいることはとてもいいことだと思っています。一方で、事務的な調整は、これまですべて教員がやっていたく

にもなったと感じています（笑）。
半数が初心者で私も新鮮。保護者への伝達などでも、今まで当たり前前に通じていたことが、そうか、こうしたことから……なんてこともありますからね。

シンプルに考える

鶴岡の取り組みでヒントにな

をしています。事はシンプル、難しくは考えるのではなく、総合型クラブやスポ少を母体に、小中が縦になって活動する体制を整えることが、部活動の地域展開における一つの手法であると考えています。

後藤 鶴岡は、スポ少の理念の浸透が全国的にも進んでいる地域です。中学生になったらリーダー

しっかりと伝わるような体制に
いから。誰でも好きなスポーツを
楽しめる環境を地域でつくるに
は、技術指導者だけでなく、多様
なことを統括できるクラブマネ
ジャーの育成が不可欠であり、部
活動の地域展開が進む今だから
こそ、その重要性が増していると
思います。

活動がスタートして半年、クレセルの実情を代表が説明する。

大変な面もあるのは確かです。
こうしたなか、中学校体育連

うスポ少もあるようですが、お手

こうしたスポ少、そして総合型クラブの魅力をいかに伝えるか、そ

軟に取り入れ、今、新たな形でクレセルは船出した。

10期生で、同団で指導もしてき
ました。また、クレセルの活動場
所となる鶴岡市立第二中学校
(稲穂サッカー少の学区であ
る)鶴岡市立朝陽第五小学校の卒
業生が進学)のサッカー部の外部

フ職などコンスタントに参加し、競技力も向上。ただし、チーム名「クレセル(成長する)」の意のように、大きな目標は、サッカーを通じて人間性を磨き、社会性を養うことにあります。

ブ員の
式戦勝利の景色を、

A portrait of a young man with dark, wavy hair, smiling broadly. He is wearing a dark blue shirt. The background is a light, out-of-focus outdoor setting.

中心となってチームを引っ張る一人、横羽^{よこは}勇人さん（中学2年）

一チ1人でしたが、クレセ^{クレセ}り、知らないことも教えてくれた体の向き一つでも大きかったのにも驚きました。初心者もいますが、互いに僕の勝利の景色を知らな^にこにたどり着き、ともに味



若公康彦氏(稲穂ファミリー
スポーツクラブ指導者部会部
会長、クレセルサッカークラブ
代表、稲穂サッカースポーツ
少年団10期生)

土日に加え、毎週木曜にナイターで行われるクレセルの活動。純粋にサッカーを楽しむ

クレセルサッカークラブ員の
リアルボイス「今は公式戦勝利の景色を、
ともに味わいたい」



中心となってチームを引っ張る一人、横羽^{よこは}勇人さん
(中学2年)

二中では顧問1人、コーチ1人でしたが、クレールにはコーチが3~4人おり、知らないことも教えられる。シュートやパスが体の向き一つでも大きく変わる、そんなことがわかったのにも驚きでした。ここからの活動で、初心者もありますが、互いに支え合い、なかには公式戦の勝利の景色を知らないメンバーもいるので、そこにたどり着き、ともに戦いたいと思っています。